

恩師・末永弘海先生召天 50 年を記念して(1)

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

聖書

ヨハネ黙示録 2 章 10 節「なんぢ死に至るまで忠実なれ。」

(献身に当たりご母堂により与えられた御言、生涯を貫かれた。)

詩篇 46 篇 10 節「汝ら静まりて我の神たるを知れ。」

(1931 年姫路に赴任された時、最初に語られた御言、牧会を貫かれた。)

略歴

1898(明治 31)年 12 月 12 日、父末永寿、母雪の次男、10 人兄弟の 4 番目として福岡市祇園町にて誕生。1913(大正 2)年 10 月 5 日、福岡メソジスト教会にて中村金治郎牧師によって受洗。関西学院商学部に進学、1921(大正 10)年卒業、1924(大正 13)年コロンビア大学に入学(経済学)。父危篤の報に接し、在籍 2 ヶ月で帰国。郵便局長を継ぎ、運輸事業において病氣回復の父を助ける。柘植不知人師の聖会に接し、家族一同メソジスト教会を脱会、基督伝道隊に加わる。(注、①中学時代祈りのために宮崎の山に上った時、急性肺炎に罹り、危ない時に助かる。ヨハネ 15 章 16 節のみ声を聞く。②関西学院時代に兄弟が同時に腸チフスにかかり、弟は召され、自らは九死に一生を得る。甲南病院にて)

1928(昭和 3)年、柘植師記念姫路聖会に導かれ、更に広島聖会、京都聖会に導かれ、京都の宿舎に静まっている時、「一切を捨てて我に従え」のみ声を聞き、「宮崎山や、甲南病院ですでに死んだと思って献身を許して下さい」との手紙を両親に送り、そのまま活水学院に 3 月 11 日に入学。(その際、ご母堂より上記のみ言葉が贈られる)。1 年余りの後、基督伝道隊解散のため、自然廃校となる。その後、以前有馬聖会で接したバックストン師に師事したく願って渡英の準備をしたが、川本いと姉の奨めに従い、神戸の山手教会、坊向久正先生の許で 1 年余り祈りの訓練を受けられる。

1931(昭和 6)年 1 月 30 日、今村源三郎氏と共に姫路基督伝道館に赴任され、以来 43 年間牧会され、1974(昭和 49)年 2 月 6 日午後 7 時 30 分に召天された。〔注、1926(大正 15)年 10 月 31 日に創立された「姫路基督伝道館」は、1942(昭和 17)年「日本基督教団中ノ門教会」に改称、1951(昭和 26)年 3 月 25 日現在地に移転の際「日本基督教団姫路福音教会」と改称。〕

その間、1940 年(昭和 15)堀郁師(淀橋教会伝道師)と結婚。1956 年 8 月 6 日郁師召天(直腸癌)。1966(昭和 41)年 4 月右足に痛みを覚え、9 月に福岡にて精密検査。その結果前立腺がん(後に足の骨癌)と診断。1967(昭和 42)年 9 月姫路に帰り、1968 年(昭和 43)年 9 月 29 日年全快感謝会。1971(昭和 46)年 9 月左足骨折。その後福岡にて静養

され、1972 年(昭和 47)年 12 月姫路に帰り、クリスマス礼拝、元旦礼拝、新年第 1 聖日礼拝、1973(昭和 48)年 4 月 8 日連合聖会中の聖日礼拝、9 月 23 日合同記念礼拝の御用をされる。「真実」の発行、「朝ごとのマナ」(1963 年 1 月～1966 年 5 月)と「一日一章」(1973 年 1 月～1974 年 2 月)を執筆、「牧会年の 37 年の回顧」(1968 年 12 月)の遺稿がある。

(参考資料・日本基督教団姫路福音教会 42 カ年の歩み、末永弘海牧師記念誌、朝ごとのマナ、一日一章)